



Title	少子時代の幼児の発達と育児
Author(s)	後藤, ヨシ子
Citation	長崎大学教育学部紀要. 教科教育学. vol.34, p.79-87; 2000
Issue Date	2000-03
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/5885">http://hdl.handle.net/10069/5885</a>
Right	

This document is downloaded at: 2019-06-17T09:00:51Z

# 少子時代の幼児の発達と育児

後藤 ヨシ子\*

(平成11年10月29日受理)

## Psychological Development and Child Care in Early Childhood at the Age of Low Birth Rate

Yoshiko GOTO\*

(Received October 29, 1999)

### はじめに

どのような社会や時代の変化の中においても、親は子どもの健やかな成長発達を願い、そして同時に苦難にも乗り越え強く生きる心の自立性を育みたいと考える。幼児期は認知機能や運動機能の発達もめざましく、基本的な生活習慣の自立の時期である。そして幼稚園生活等、集団の中での友達との遊びや自己発揮・自己抑制の調和のある関係性を育む学びの時期が始まっている。心のしつけも大切な課題の時期であると思われる。

今回は今日の少子時代の中、また価値観の多様な時代の中で、親はどのような育児観や価値観をもち、意識的に基本的な生活習慣の形成や心のしつけに心を傾け、また遊びや運動機能の発達のために、日々育児の工夫や実践をしているかその内容や実情について考察を試みた。

### 研究方法

対象は長崎市内の4幼稚園に通う3～5歳児244名(男児132名、女児112名)をもつ母親に、現在の幼児の基本的な生活習慣の自立や運動機能の発達状況、および家庭で意識的に取り組んでいるしつけの内容、さらに子どもの遊び・育児面において日々工夫している事柄について、質問紙法による調査を実施した。

実施期間は1994年11月である。

### 研究結果

#### 1. 幼児の発達状況

幼児の基本的な生活習慣や運動発達に関する38項目について、「きちんとできる」「大体できる」「まだ不十分」の3段階にて回答をえた。4～5歳児を中心に「きちんとできる」と「まだ不十分」の割合について特に17項目をとりだし検討した。

---

\* 長崎大学教育学部家政教育講座

表1-1 基本的生活習慣・運動発達(微細運動)状況

項 目		きちんとできる		まだ不十分	
		4歳	5歳	4歳	5歳
スプーンでこぼさず 食べる	男	76.6%	89.2%	1.7%	0%
	女	88.4	93.7	0	0
スプーンと茶碗を両手で 使う	男	73.3	91.0	1.7	0
	女	82.6	89.5	1.9	2.1
服の着脱	男	83.3	94.6	0	0
	女	85.6	100.0	1.9	0
小さいボタンをかける	男	78.3	91.0	0	0
	女	82.6	97.9	0	0
顔を洗ってタオルでふく	男	80.0	83.9	3.3	0
	女	80.7	93.7	1.9	0
ひとりで歯を磨く	男	70.0	69.6	3.3	0
	女	69.2	83.3	1.9	0
入浴のとき体を洗う	男	60.0	71.4	6.7	3.6
	女	71.1	91.6	5.8	0
タオルを絞る	男	38.4	68.0	13.3	1.7
	女	46.3	77.1	15.3	0
正しいはしのもち方	男	41.7	53.6	13.3	12.5
	女	42.4	72.9	11.5	4.2
爪を切る	男	3.3	16.0	81.6	73.2
	女	7.6	35.4	73.0	43.7
正方形を描く	男	55.0	75.0	3.3	3.6
	女	67.3	81.2	7.7	0
三角形を描く	男	78.3	87.5	0	0
	女	80.7	85.4	1.9	0
はさみで紙を真っ直ぐ 切る	男	61.8	78.7	1.6	1.7
	女	69.3	79.2	3.8	0
はさみで形を切り抜く	男	40.0	55.5	5.0	1.7
	女	46.3	79.3	7.6	2.0
はさみで厚紙を切る	男	25.0	48.3	20.0	10.2
	女	36.7	64.7	15.3	6.2
ひもをかた結びする	男	18.4	50.0	53.3	21.4
	女	63.5	75.0	15.4	6.3
ひもを花結びする	男	1.7	12.5	86.7	78.6
	女	27.0	41.7	61.5	31.3

## (1) 基本的な生活習慣・微細運動に関する項目について

## a. 基本的な生活習慣の自立

特に食事・衣服の着脱・清潔に関する10項目をとりあげた。4歳から5歳にかけて「きちんとできる」割合は発達に伴い当然高くなり、「まだ不十分」の割合は殆どない、あるいは非常に少なく、目安の5歳にはほぼ自立できているのは8項目においてみられた。しかし5歳児において「きちんとできている」割合には性差がみられ「入浴の時体を洗う」や「ひとりで歯を磨く」項目にかなりみられている。

一方5歳児においても「まだ不十分」の割合が若干高い項目は、「正しいはしの持ち方」である。男児で「まだ不十分」が1割強みられ、「きちんとできている」割合も53.6%とほぼ半数の子どもであり、一方女児は「きちんとできている」割合は72.9%と性差がかなりみられている。さらに「爪を切る」では5歳児においての自立は「まだ不十分」の割合は大変高く、男児で73.2%、女児の43.7%と性差も大きくみられており、これは児童期に至って自立する項目といえる(表1-1)。

## b. 微細運動に関する項目

手先を使う微細運動に関する7項目をとりあげた。5歳児において「まだ不十分」の割合が最も高いのは「ひもを花結びする」、次いで「ひもを固結びする」である。いずれも今日の日常生活において経験する機会は少ないことを反映していると考えられ、意識的に使用する機会を用意することが要求される内容ともいえる。性差もはさみや紐を使用する項目において大きくみられている。手先を使用する微細運動はどちらかといえば男児より女児の方が5歳において、早く達成している項目が多いようである(表1-1)。

## (2) 運動発達(全身運動)に関する項目について

大きく体を使う全身運動に関する6項目をとりあげた。4歳から5歳児にかけて「きちんとできる」割合は高くなり、「大体できる」割合を加えると項目の殆どが到達している。性差が若干みられており、「上手投げでボールを投げる」は男児の方が、一方「ぶらんこを立ってこぐ」は女児の方に割合は高くみられている(表1-2)。

表1-2 運動発達(全身運動)状況

項 目	き ち ん と で き る			
	4歳	5歳	4歳	5歳
	男	女	男	女
片足で立つ	88.3%	78.8%	92.8%	95.8%
片足でケンケンをする	80.0	86.4	85.7	95.8
上手投げボールを投げる	78.3	63.4	89.2	75.0
でんぐり返しをする	85.0	86.5	94.6	93.7
スキップをする	71.7	80.9	82.2	89.6
ぶらんこを立ってこぐ	55.0	82.8	73.3	87.6

表2-1 家庭で意識的にしつけている(しつけた)もの(3~5歳児)  
 - 微細運動(手先の器用さ)を養うもの -

(%) (複数回答)

内 容	男	女	計
小さいボタンをかける	75(56.8)①	49(43.8)①	124(50.8)①
正しいはしのもち方をする	61(46.2)②	51(45.5)②	112(45.9)②
はさみで形を切り抜く	40(30.3)③	37(33.0)③	77(31.6)③
はさみで紙をまっすぐ切る	40(30.3)③	32(28.6)④	72(29.5)④
服の着脱	32(24.2)⑤	18(16.1)⑥	50(20.5)⑤
ひもを花結びする	9( 6.8)	23(20.5)⑤	32(13.1)⑥
ひもを固結びする	14(10.6)⑥	17(15.2)⑦	31(12.7)⑦
ひとりで歯を磨く	12( 9.1)⑦	13(11.6)⑧	25(10.3)⑧
スプーンでこぼさず食べる	9( 6.8)	8( 7.1)	17( 7.0)
ファスナーを開閉する	10( 7.6)⑧	7( 6.3)	17( 7.0)
円を描く	10( 7.6)⑧	6( 5.4)	16( 6.6)
靴をはく	8( 6.1)	6( 5.4)	14( 5.7)
入浴の時体を洗う	6( 4.6)	7( 6.3)	13( 5.3)
顔を洗ってタオルでふく	5( 3.8)	7( 6.3)	12( 4.9)
手をこすり合わせて洗う	7( 5.3)	5( 4.5)	12( 4.9)
正方形を描く	3( 2.3)	8( 7.1)	11( 4.5)
スプーンと茶碗を両手で使う	8( 6.1)	3( 2.7)	11( 4.5)
鼻をかむ	5( 3.8)	5( 4.5)	10( 4.1)
三角形を描く	4( 3.0)	5( 4.5)	9( 3.7)
瓶のふたを回してはずす	6( 4.6)	3( 2.7)	9( 3.7)
はさみで厚紙を切る	0	9( 8.0)	9( 3.7)
うがいをする	3( 2.3)	4( 3.6)	7( 2.9)
タオルをしぼる	5( 3.8)	2( 1.8)	7( 2.9)
蛇口をひねる	4( 3.0)	1( 0.9)	5( 2.1)
髪をとかす	0	3( 2.7)	3( 1.2)
爪をきる	0	0	0
その他	18(13.6)	4( 3.6)	22( 9.0)
特にない	34(25.8)	33(29.5)	67(27.5)

## 2. 家庭で意識的に上手になるようにしつけている（また過去しつけた）項目について

基本的な生活習慣と運動機能の発達に関する38項目について検討した。とくに親が積極的に意識してしつけていないという割合も高く、微細運動においては27.5%、全身運動においては61.9%みられた。その理由として兄・姉との遊びや行為を見てまねて身につけている。また幼稚園生活の中で指導していただけるという安心感や特に積極的にしつけなくても日常生活の日々の積み重ねの中で自然に身につけていくものという考えであった。

### (1) 微細運動（手先の器用さ）を養うもの

a. 手先の運動に関連する26項目について、特に意識してしつけている（また過去にしつけた）割合の多い項目順に、そして上位8位までについては番号を記している（表2-1）。特にボタンかけ、はしのもち方、はさみの使用が上位3位にある。

b. 「その他」の自由記述の具体的内容について（人数）

26項目以外に家庭で意識的に努力している（または努力した）内容である。

- ・豆（小さな菓子）をつまむ、はしでつかんでビンに入れる（5）・ブロック（3）
- ・ジグソーパズル（3）・紐とおし、ビーズとおし（3）・折り紙（3）・粘土（1）
- ・プラモデル（1）・ちぎり絵（1）・工作（1）・あやとり（1）計22名である。

表2-2 家庭で意識的にしつけている（しつけた）もの（3～5歳児）

—運動機能(全身運動)の発達につながるもの—

内 容	（%）（複数回答）		
	男	女	計
でんぐり返しをする	47(35.6) <sup>②</sup>	39(34.8) <sup>①</sup>	86(35.2) <sup>①</sup>
三輪車をこぐ	50(37.9) <sup>①</sup>	25(22.3) <sup>①</sup>	75(30.7) <sup>②</sup>
上手投げでボールを投げる	42(31.8) <sup>①</sup>	21(18.8) <sup>⑤</sup>	63(25.8) <sup>③</sup>
片足ケンケンをする	31(23.5) <sup>④</sup>	22(19.6) <sup>④</sup>	53(21.7) <sup>④</sup>
スキップをする	18(13.6) <sup>⑤</sup>	26(23.2) <sup>②</sup>	44(18.0) <sup>⑤</sup>
ブランコを立ってこぐ	16(12.1) <sup>⑥</sup>	18(16.1) <sup>⑥</sup>	34(13.9) <sup>⑥</sup>
両足揃えて飛び降りる	11( 8.3)	5( 4.5)	16( 6.6)
片足で立つ	6( 4.6)	8( 7.1)	14( 5.7)
交互に足をだして階段を上がる	4( 3.0)	6( 5.4)	10( 4.1)
交互に足をだして階段をおりる	3( 2.3)	4( 3.6)	7( 2.9)
つま先歩きをする	3( 2.3)	3( 2.6)	6( 2.5)
両足揃えて階段をおりる	0	2( 1.8)	2( 0.8)
その他	34(30.4)	18(16.1)	52(21.3)
特にない	79(59.9)	72(64.3)	151(61.9)

## (2) 運動機能の発達につながるもの

- a. 全身運動に関連する12項目について、特に意識してとりくんだ割合の多い項目順に、そして上位6位までについて番号を記している。特にでんぐり返し、三輪車のり、ボール投げが上位3位にある(表2-2)。
- b. 「その他」の自由記述の具体的内容について(人数)  
12項目以外に家庭で意識的に努力している(または過去に努力した)内容である。  
・公園の遊具で遊ぶ(アスレチック, ジャングルジム等)(9)・ボール遊び(投げる, 蹴る, うける)(8)・なわとび(6)・サッカー(5)・かけっこ, ジョギング(4)・体操教室(4)・野球(3)・高い所から跳ぶ(3)・山登り(2)  
・バドミントン(2)・よく歩く(2)・跳び箱(1)・鉄棒(1)  
・一輪車乗り(1)・ローラスケート(1) 計52名である。

3. 家庭で「子どもの遊び」や「育児」において、力をいれていることや工夫していること  
自由記述による具体的内容について下記に示している(人数)。

## (1) 「子どもの遊び面」について

## a. 外遊びそして友達と遊ぶことに関すること(127)

天気の日には外で遊ぶ。外で伸び伸び遊ばせる。体を思いっきり動かし仲良く友達と外で遊ぶ。戸外で走り回ったり、縄跳びやボールで遊ばせる。公園等に行き、アスレチック広場で全身を使って運動をさせる。テレビやファミコンを出来るだけ避けて、思いっきり外で遊ばせる。今しかできないことを思い切り外で体験させてあげたい。なるべく外で遊び、多人数で遊ばせたい。誰とでも仲良く遊べるように。いろいろな年齢層の子どもたちとかかわりをもたせ遊ばせている。できるだけ友人と遊ぶ時間をつくってやる。友達との遊びでいろいろ学んでほしい。ひとり遊びが好きなようなので、できる限りお友達とかかわって遊ぶ楽しさを覚えてほしい。体力をつける遊びをしてほしいので、家の中での遊びに片寄らないように気をつけている、等。

〈遊び内容については〉

外遊びの場合 : 走り回る, なわとび, ボール遊び, 砂・どろ・水遊び, 自転車のり, サッカー, 野球, バドミントン, アスレチック, ドッチボール, 等

室内遊びの場合 : パズル, ブロック, ビーズの紐とおし, モザイク遊び, 絵をかく, ぬり絵, ゲーム遊び, 大きなネジを使っての組み立て遊び, ごっこ遊び, 迷路の絵本, 歌, 空き箱等を使って工夫して遊ぶ, 体操, 等

## b. 遊びに関する考え方に関すること(38)

イ. 自主性・創意工夫(31) : 自主性にまかせる。伸び伸びと自由に遊ぶ中に自分たちで創意工夫した遊びをやらせたい。本人の発想で自由に遊べるように、危険以外は目をつぶる。その年齢に応じたことをするかどうか、そばから見守り、あまり大人が手を入れないようにしている、等。

ロ. 集中力(7) : 遊んでいる時はあまり声をかけずに、集中して遊ばせるよう心掛けている。好きな遊びをとことんさせる、等。

## c. 遊具の与え方・環境づくりに関すること(27)

新しいおもちゃはなるべく買い与えなくて、家にあるもので工夫している。電池や電気で動くおもちゃはあまり与えず、木のおもちゃや自分で作ったり、組み立てたり出来

る物を選ぶ。空き箱や紙、紐等をためておいて自由な発想で遊ばせている。創造力豊かになるように、いつでも創作できるように箱や紙など、材料を集めておいている。

伸び伸び遊べるように部屋に物をあまり置かない。家の中にブランコ、スベリ台等をおいて体を動かせるようにしている。庭に砂をいれて砂遊びができるようにしている。

ままごと遊びでも、本物の包丁を与えて野菜を切らせている、等。

d. 家族・親子で遊ぶことに関すること (45)

イ. 家族全員でゲームしたり、運動をしたりして一緒に過ごす時間をつくっている。

外に連れ出す回数をふやし、公園や空き地などで遊びを工夫して楽しめる機会をつくっている。新聞紙・チラシ・箱等、身近なものを使って一緒に絵をかいたり物をつくったりしている、家族全員でゲームをしたり運動をしたりして一緒に何かをする時間をつくっている。家族の休みが重なった折りは野外にできるだけ連れ出し皆で遊ぶようにしている。おもちゃがなくても公園などで木の枝や葉っぱとか使って一緒に遊ぶ工夫をする。子どもが興味を覚えたらなるべくそれに協力する。ボール遊び等、正しい投げ方、蹴り方を教える。自転車に乗れるように乗り方を教えている。ボールけりや野球等上手になるよう父親と遊んでいる。休みの日は外で家族で遊ぶ。テレビゲームやビデオ等が多くなるので、できるだけトランプや将棋など一緒にするようにしている、等 (21)。

ロ. 自然遊び (8) : 休日は必ず自然の中へ遊びに連れて行く。山・川・海に連れて行き自然の中で遊ばせる。自然のものを使い創意工夫して遊べるように (虫、土、水、草花) 親子で楽しむ、等。

ハ. 本の読み聞かせ (16) : 親子で絵本を読む。夜のひと時を絵本の読み聞かせで過ごしている。本に親しむ、見る環境をつくる、等。

e. 社会性・ルールに関すること (11) : お友達と遊ぶ時のルールや公共の場所で遊ぶ時のマナーを覚えさせる。自分の我を通さず協調性をもつようにと言いつけて聞かせている。友達に手を上げないように仲良く遊ぶ。伸び伸びと遊びながら、最低限のルールがあることを教える。順番を守ったり自分の持ち物をかしてあげたり、ゆずりあって使うように、等。

f. 健康・安全に関すること (11) : けがや事故にいたらないように遊び方を教えている。元気がよいのでけがをしないように注意させている。物 (長いもの等) をもって遊ぶ時は危ないということを教えている、等。

g. テレビゲームやビデオ視聴に関すること (10) : 時間を決めている。テレビ等の受動的なものは出来るだけ避ける、等。

(2) 「育児面」について

a. 自立心・自主性に関すること (34) : 自分のことは自分でできるようにしている。自分の身の回りのことが主体的に自分でできるように日常生活の問題場面で手助け、助言をする。なるべく親が手をかかずに最後までやりとおせる様にする、等。

b. 思いやりに関すること (25) : 思いやりをもち、大人になって社会に適応できる子になるように。だれにでもやさしくできる、心にゆとりのある子どもに。他人の痛みもわかるやさしい子ども。自分より小さい子、弱い子には力を使わず優しくする。兄弟



で一緒に遊ぶことが多いのでみんなで仲良く妹をいたわりながら遊ぶように言葉かけをしている, 等。

- c. 親の接し方に関すること (25) : 伸び伸びと育てるために, 親の考えを押し付けない。できるだけ言い聞かせ怒らないように注意している。ほめて伸ばす育児に力をいれている。子どもに対して過干渉または過保護にならないよう気をつけている。子どもの話に耳を傾けるよう努めている。素直で明るい子になるように子どもとたくさんお話ができるよう心がけている。人格を持った人間として扱うよう気をつけている。「子どもの心理」に関しての本等読み, 子どもの気持ちを少しでも分かるよう努力している。子どもとの時間を一日一回は必ず持つようにスキンシップを心がけている。子どもと話す時は, 目をみて話したり返事をするようにしている。両親の育児についての考えを合わせる, 等。
- d. 後かたづけに関すること (21) : 遊びの後の後かたづけも遊びの延長として楽しくさせている。自分で後かたづけができるようにかたづける場所を決めている, 等。
- e. 健康面に関すること (15) : 外から帰ったら手洗いとうがいは必ずさせている。早寝早起きをする。三食きちんと食べる。好き嫌いをしない。目と歯を大切に。食べ物に関してできるだけ自然のものをたべさせたい。病気はしないように予防できる面はがんばる, 等。
- f. 道徳的に関すること (15) : 善悪を自分で判断できるようになってほしい。人にされて嫌なことは人にしない。他人に迷惑をかけない。兄には尊敬し妹には思いやりをもつ子どもになってほしい。自分が人に悪いことをしたときはすぐにあやまるように注意している。人に迷惑をかけることが, わかる行動はしないように言っている。遊びにいった時の帰宅時間を守らせる。約束したことは守る, 等。
- g. 自己表現・自己抑制に関すること (14) : 意志表示をしっかりとできる子どもに。自分の考えをきちんと話せるように。自分の気持ちを話せるように。我慢するところと自己主張するところができるように。自分中心の考えを少しずつ改め, 相手のことも考えさせる, 等。
- h. 親子の体験に関すること (14) : 親も子どもも共に喜びや感動をわかちあえるようにいろんなことを経験する。父親とのコミュニケーションを十分とってほしいと願っているので, 父親がいる時は父親とかかわらせるように心掛けている。父親を参加させ夫婦仲良く, 常に子どもとは笑顔で接する。身のまわりの自然や事物に対する感受性を大切にしよう親子で散策する。家族の絆を強める事をみんなで行う。家事に関心があるので遊び感覚でお手伝いをしてもらおう, 等。
- i. あいさつや言葉使いに関すること (13) : 礼儀正しく。あいさつがしっかりとできるように。言葉使いに気をつけている, 等。

#### おわりに

少子化は親のゆとりある世話や教育に期待ができるというプラスの評価が考えられる一面, 子どもの心身の健やかな発育発達において, 殊に子どもの人間関係における体験の「縮小化」や「希薄化」に懸念がもたれ, その影響は「多様な価値観の存在を学び, 我慢すること, 人の心の痛みを感じることを, ひいては創造力や活力を育む」ことの体験につながる。

これら子ども時代の体験は社会や時代の変化の中、常に変わらず大事とされる価値観であると考えられる。

幼少期の環境のありようは親が大きく関与している。基本的なしつけ、友達遊び、遊具、自然との触れ合い等、親の育児観や価値観が大いに反映される。今回の子どもの基本的生活習慣の自立や遊び、運動発達等において、育児における親の熱い思いや期待が投影されていた。意識して、家庭で力を入れたり・工夫している内容にも多様性がみられるが、多くの親たちは共通して「仲良く友達と思いきり外遊びを好み、協調性や人への思いやり、そして自立性のある」子ども像が描かれている。そして育児における子どもへの接し方や子ども理解のための努力と同時に家族や親子一緒に感動や豊かな体験を多くしたいという親達の考えが示されていた。幼少期の温かい親子の体験は生きる力や心の強さ、豊かさを育む心の基盤でもある。

21世紀を担う子どもたちが健やかな発達と幸せな人生を思いやる時、育児・保育においても、大人がどのような育児観・価値観をもつか、その内容と適切な方向を各自が考えを示し、日々の育児の中に実践し子どもに伝えていくことの大事さが、親を含め保育にたずさわる人々の現在の課題としてある、と考えている。

## 文 献

- 1)小此木啓吾:望ましい心のしつけとは 児童心理 53巻16号,1-11,1999
- 2)厚生大臣の懇談会:これからの家庭と子育てに関する懇談会報告書 1990
- 3)後藤ヨシ子他:少子時代の幼児の生活と遊び 長崎大学教育学部紀要 教科教育 No.32, 89-99, 1999